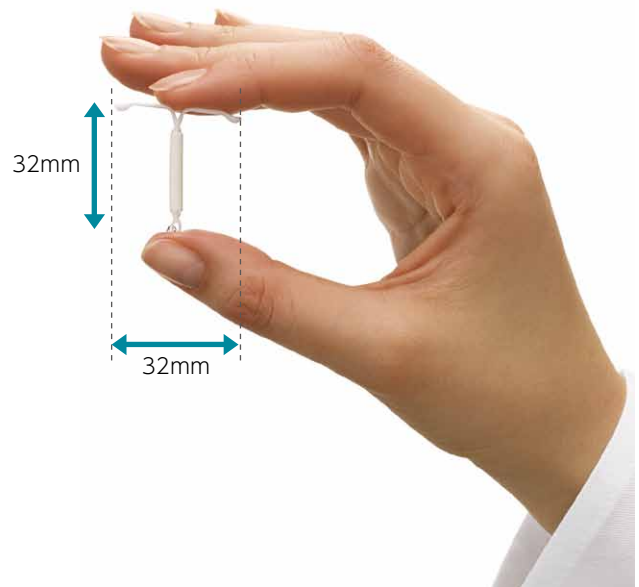


LNG-IUS (子宮内黄体ホルモン放出システム) による過多月経・月経困難症の治療をされる方へ



LNG-IUSは子宮の中で作用するお薬です。

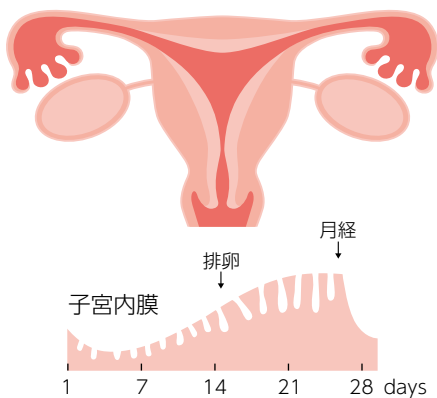
- LNG-IUSは、女性ホルモンのひとつである「黄体ホルモン」を子宮の中で持続して放出する「子宮内システム」です。
- LNG-IUSの本体はT字型をしていて、柔らかいプラスチックでできています。
- LNG-IUSを子宮の中に入れると、T字型の縦の部分から、黄体ホルモンがゆっくりと持続的に放出されます。
- 一度LNG-IUSを装着すると、その効果は最長で5年間持続します。



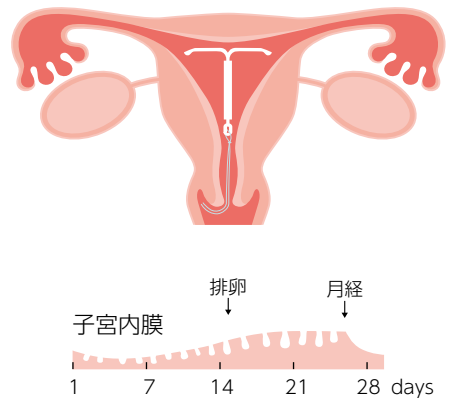
LNG-IUSによる治療のしくみ

- LNG-IUSから放出される黄体ホルモンには、子宮内膜の増殖を抑えるはたらきがあります。
- LNG-IUS装着後、子宮内膜が薄くなることにより、月経血量は減少し、月経痛も緩和されます。

LNG-IUS装着前イメージ図



LNG-IUS装着後イメージ図



LNG-IUSには避妊効果があるため、すぐに妊娠を希望する方にはおすすめできません。なお、装着をやめると元の状態に戻り、妊娠は可能となります。

LNG-IUSについて、知っておいていただきたいこと

●装着について

装着前の検査

- LNG-IUSを装着する前に、妊娠していないことの確認や、子宮や卵巣の検査、性感染症にかかっていないかどうかの確認、乳房の検査などが行われます。

装着にあたって

- LNG-IUSは月経開始後7日以内に装着します。
- 子宮の入り口から、細く柔らかいプラスチックのチューブを使って子宮内に装着します。
- 装着のときに不快感を感じたり、生理痛のような痛みや出血、軽いめまいなどが起こることがあります。
- 装着は通常の場合数分程度で終了し、装着後はそのまま帰宅することができます。

●装着後について

装着後の症状

- LNG-IUSを装着してから数日間は、出血、下腹部痛、腰痛、おりものなどの症状があらわれることがあります。また、一時的に乳房が張る症状が見られる場合もあります。これらの症状が継続する場合やひどい場合は主治医にご相談ください。

装着後の変化

- LNG-IUSを装着してから数ヵ月間は、月経時期以外に出血が続くことがありますが、通常は日数の経過とともに消失します。
- LNG-IUSを装着していても、月経はご自身の周期で起こります。装着してから日数が経過するとともに月経血量が減り、痛みの症状も軽くなってきます。
- 黄体ホルモンの効果によって子宮内膜が薄くなるため、装着後1年には約20%の方で月経が起こらなくなると言われています。

●副作用について

次のような副作用が起こることがあります。

- 月経出血日数の延長
- 腹痛
- 月経時期以外の出血
- 卵巣のう胞(通常はホルモン変化にともなう一時的なもの)
- 月経周期の変化
- LNG-IUS除去後の出血 など

その他、次のようなことにも注意が必要です。

- LNG-IUSの脱出(LNG-IUSが気付かぬうちに抜けてしまうこと)
- LNG-IUSの穿孔(まれにLNG-IUSが子宮の壁に入り込んでしまうこと)
- 骨盤内炎症性疾患(子宮や卵管等、骨盤内に炎症が起こること)
- 異所性妊娠(子宮外妊娠)(受精卵が子宮腔以外の場所で育っている状態)



LNG-IUSについてわからないことや心配なことがあれば、主治医にご相談ください